

ここ数年コロナ禍で時間を短縮したり、実地見学を取りやめたりなどしていた新人教育研修がですが、今年久しぶりに本来の形で実施することが出来ました。その内容を研修委員に報告してもらいます。



講義に耳を傾けている様子



実地見学で説明を受けている参加者

今年の新人教育研修が4月16日から始まりました。今回は新病院になってから初の開催で、昨年5月から今年4月までに入職した14名の新人職員の方が対象になっています。参加者の職種は看護助手の方が半数を占めるという傾向にありました。昨年までは感染対策として院内での講義を中心に行っていましたが、今年は病院を飛び出し、法人関連施設の見学会も行いました。講義と施設見学の2段構えで日を分けて執り行いました。

4月16日は院内での講義で、看護部・リハビリテーション部・訪問看護ステーションころっくる・地域医療連携室の各スタッフが講師となり、それぞれ部署の構成や業務内容についての説明を行いました。看護部からは精神科看護の歴史や看護部の理念について、リハビリテーション部からは看護や看護助手との連携の大切さ、ころっくるからは対象者が持っている力を活かした関わりの必要性、地域医療連携室からは警察や酩酊状態の方の相談があった場合の対応例などの講義があり、各部署それぞれの役割や思いが伝わる内容でした。4月30日には片岡理事長による病院理念についての講義があり、実際にデイケアを見学した後に通常のデイケアやリワークデイケアなどの説明を受けました。また各種委員会についての説明も行われました。

施設見学は業務への影響を最小限にするために4月17日と24日の2回に分けて実施しました。両日とも7名ずつが参加し市内柳町にある就労サポートセンター紙風船・グループホーム遊友荘・相談支援事業所とまっぶの見学会を行いました。就労支援については初めて見聞きする方も多く、興味関心の高さが伺えました。また市内とはいえ当院から車で20分ほどかかり、通常業務の中では見に行くことも簡単にはできないため、法人関連施設の見学は貴重な機会になったのではないかと思います。

新人教育研修は当法人の地域医療の取り組みや考え、相互の連携を理解してもらうことに加えて、他部署の方と顔見知りになることで早く職場に慣れてもらうことも目的の一つだと考えています。新人職員の方にとってコミュニケーションがとりやすい開かれた職場になるよう、諸先輩方もご協力をお願いいたします。

それぞれの職種がそれぞれの役割を果たしながら、ひとりひとりの対象者に向き合い、同じ目標に向かって支援してい

2024年新人教育研修参加者 採用年月日順

高橋 千紘 (看護助手)	丹田 美幸 (看護助手)
高橋 美佳 (精神保健福祉士)	合田 真紀子 (看護助手)
松崎 理絵 (看護助手)	長門 由美子 (看護助手)
津野 靖子 (看護師)	舘 潤一 (紙風船 指導員)
石戸谷 順子 (管理栄養士)	田谷 慶子 (看護師)
菅原 梨沙 (看護師)	大和 沙智 (看護助手)
安堵城 心愛 (看護助手)	高木 蒼太郎 (医師)

部署紹介

第2回 外来

先月は地域連携室を取り上げましたが、今回は外来を紹介したいと思います。外来とは皆さんが想像する通り、受付をしてから診察を受け、時には検査、処置なども受け、最後に会計を行うことを言います。また、夜間や休日の時間外の診療も外来診療の一つになります。

ウトナイ病院外来では新しい試みとして受付番号での呼び出しを始めました。移転直後や柳町診療所との統合時には対応不十分な点多々あり、ご利用されている皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、春になりこのシステムも定着してきたのではないのでしょうか。それでも、混雑時は待ち時間が長いなど声が聞かれ、対策として待合にフリーWi-Fi設置の検討や受診の流れの見直しを行うなど、定期的に外来部門での話し合いを実施しています。未だ思考錯誤の状態ではありますが、利用者の方達が受診しやすい外来を目指しておりますので、何かお気づきの点がございましたらお声がけいただければと思います。

受診の流れ

- 1) 受付
受付にて診察券と健康保険証をご提示ください。受付番号札をお渡ししますのでお受け取りください。
- 2) 待合
診察室前待合で受付番号が呼ばれるまでお待ちください。
- 3) 診察
受付番号呼ばれましたら診察室にお入りください。
- 4) 待合
診察が終わりましたら、診察室前の待合にてお待ちください。看護師が受付カード・処方箋が入ったファイルをお渡しいたします。
- 5) 会計
受付カード、処方箋が入ったファイルを会計窓口にご提出ください。
精算が終わりましたら、お呼びしますので会計をお済ませください。
会計終了後、診察券と処方箋をお渡しいたしますので院外薬局へお持ちください。



毎年4月から5月にかけて、京都でKYOTOGRAPHIE（キョウトグラフィ）という、国際写真祭が開かれます。今回は観客としてでなく、その内側から参加させてもらいました。2013年に写真家ルシル・レイボーズさんと照明家の仲西祐介さんが立ち上げたイベントで、今年でちょうど干支が一回りしました。参加する写真関係者の間でよく話が出るのは、「ここ数年で国内外に定着し、作品もより見ごたえあるものになってきた」ということです。

「京都と写真」の掛け合わせという最強コンビと思いきや、苦勞の道のりだったとのこと。新型コロナウイルス禍で開催が危ぶまれた年もあり、寄付を募りいまに続いています。地域のボランティアにより、会場の当日運営もまかなわれています。すべてはまさにスタッフの熱意で継続されているようです。

かく言う私も、KYOTOGRAPHIEに初めて足を運んだのは2年前でした。それでも年々、量も質も上がってきているのを感じます。イベントも人間と同じく、育っていくものなのだと知りました。と同時に、なにごとにも焦らず気長にやっていくのが一番大切なのだとも感じています。

(S.K)



精神科医 田中 尚朗

第14回 線路が大学構内を貫通!?

みなさんこんにちは。今回は完全な廃線ではないものの、大学構内を貫通する珍しい路線を取り上げたいと思います。

マサチューセッツ工科大学(MIT)といえば、ハーバード大学と同様、ボストンエリアでもっとも有名な大学の一つです。1865年に開学、96人のノーベル賞受賞者を輩出しています。この名門大学の構内は、なんと1本の鉄道線路に貫通されています。しかし旅客取り扱いがまったくないので、MIT関係者以外では、この路線のことを知る人はほとんどいないことでしょう。

グランド・ジャンクション鉄道。この路線は、ボストン南駅から西へ向かう路線と北駅から北上する路線を結ぶ利便性を求めて建設されました。1849年から部分開業を繰り返しながら1856年に全通しています。しかし鉄道時代の終焉とともに、1950年代から70年代にかけて約半分の区間が廃止されてしまいました。

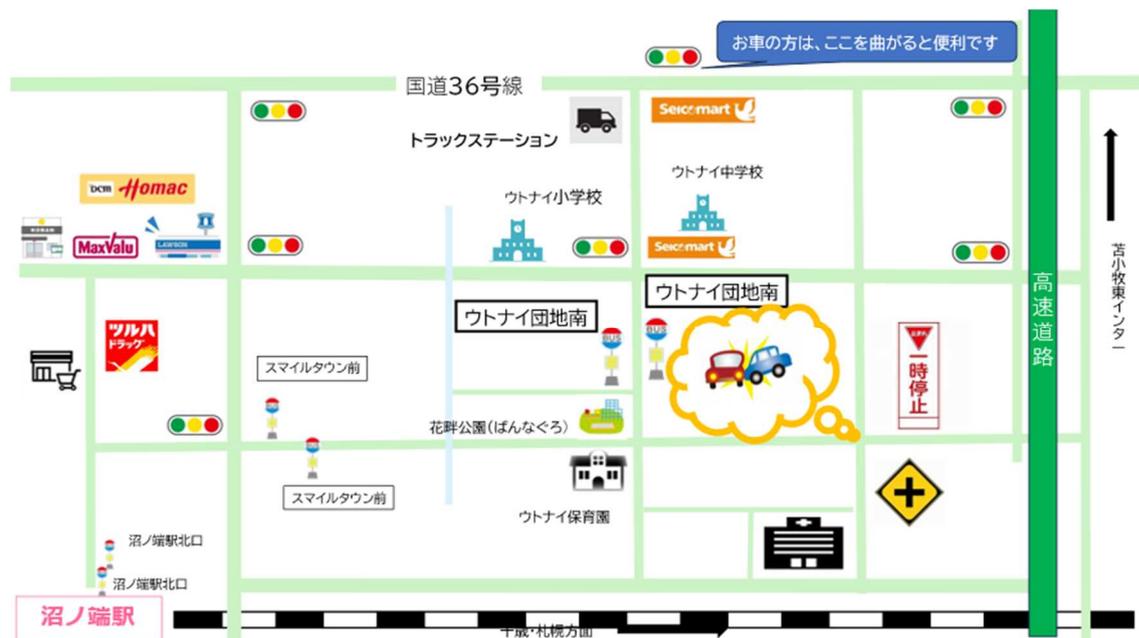
しかし、MIT構内を含む区間は生き残りしました。この区間によってボストンの北駅と南駅がころじてレールでつながっている状況です。連載の第4回で、北駅と南駅の間路線について少し触れましたが、グランド・ジャンクション鉄道こそがその路線です。その回では「年に数回、いわば儀式的に使用されるだけ」などと書いてしまいましたが、実際にはもっと頻繁に使用されており、主に車両設備の移動に用いられているようです。もっとも現在の使用頻度は不明です。10年ほど前の映像はYouTubeでもいくつか見られますが、何しろ旅客取り扱いがないので知りようがないのです。

それにしても、微細な工学的測定が日々多数行われているMIT構内を、鉄の塊である列車がゴトゴトと走り抜けるとは。MIT側としては苦々しい限りでしょうが、なんとか折り合いをつけているのでしょう。市街地に鈍い光を見せる、しがたない単線。おおいに好奇心をかきたてられますね。



お知らせ

当院近くの交差点で交通事故が多発しています。3月末から4月までにすでに3件も起きています。交通標識には一時停止マークがなく「交差点」マークしかありませんが、国道36号線から当院に向かう道路側には「一時停止」の看板が立っています。この周辺は信号機がなく車の速度が速いため事故が起こりやすいものと思われます。皆さん、受診や面会等でこちらを通る際には充分ご注意ください。



先生のしらがを見つけ 苦勞知る ★山内

やっと来た 気分上昇 春気分 ★けいじ

お知らせ

◆ 対面面会再開のお知らせ ◆

ウトナイ病院に入院されている方への面会については、令和6年4月22日（月曜日）から、予約制で対面面会が再開となりました。予約につきましては各病棟に直接お問い合わせください。

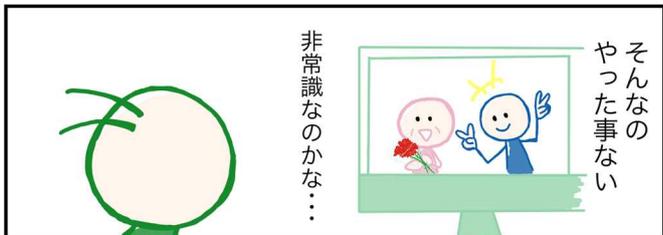
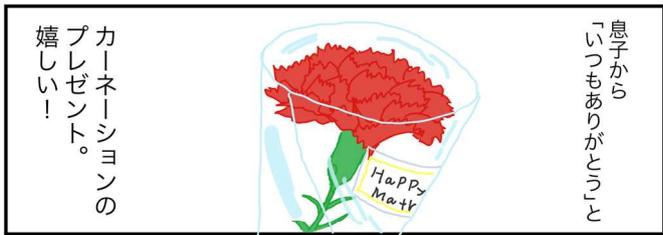
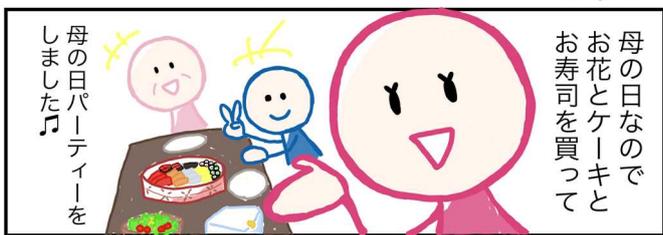
ウトナイ病院：0144-84-5561（代表）

◆ 電話についてお願い ◆

代表番号に電話が集中することを防ぐため、下記のように使い分けていただけますようご協力をお願い致します。

- ① 外来や入院の新患受診相談
⇒ 地域連携室直通
0144(84)5658
- ② 受診に関することや会計・手続等のお問い合わせ
⇒ 代表電話
0144(84)5561
- ③ 入院中の方の担当コメディカルスタッフへのご相談・ご連絡
⇒ リハビリテーション部直通
0144(84)1017
- ④ デイケア通所中の方
⇒ デイケア直通
0144(84)5774

うしろめたい日？ まりも



発行
社会医療法人こぶし広報委員会
苫小牧市ウトナイ南2丁目1-8
TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



左手が「山」右手が「口」

< 後記 >

山口県に住む友人が10年前から地道に広めている山口ポーズ。一時期埼玉の真似をしているみたいになっていたこともあったけれど、今も隙あらば山口ポーズをします。道民の皆さんには機会がないとは思いますが、何かの時に山口ポーズよろしく願いいたします。(K.S)